

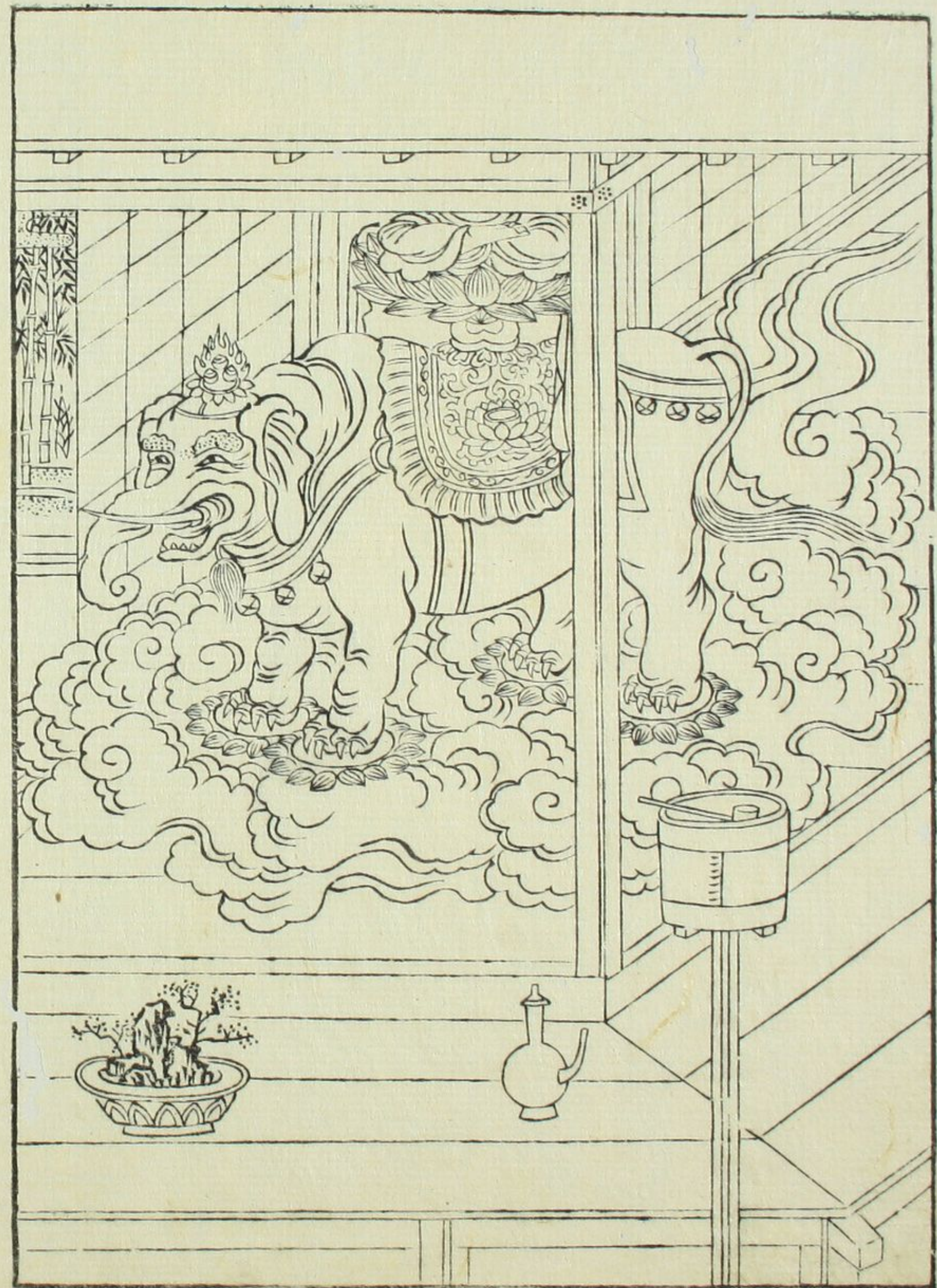


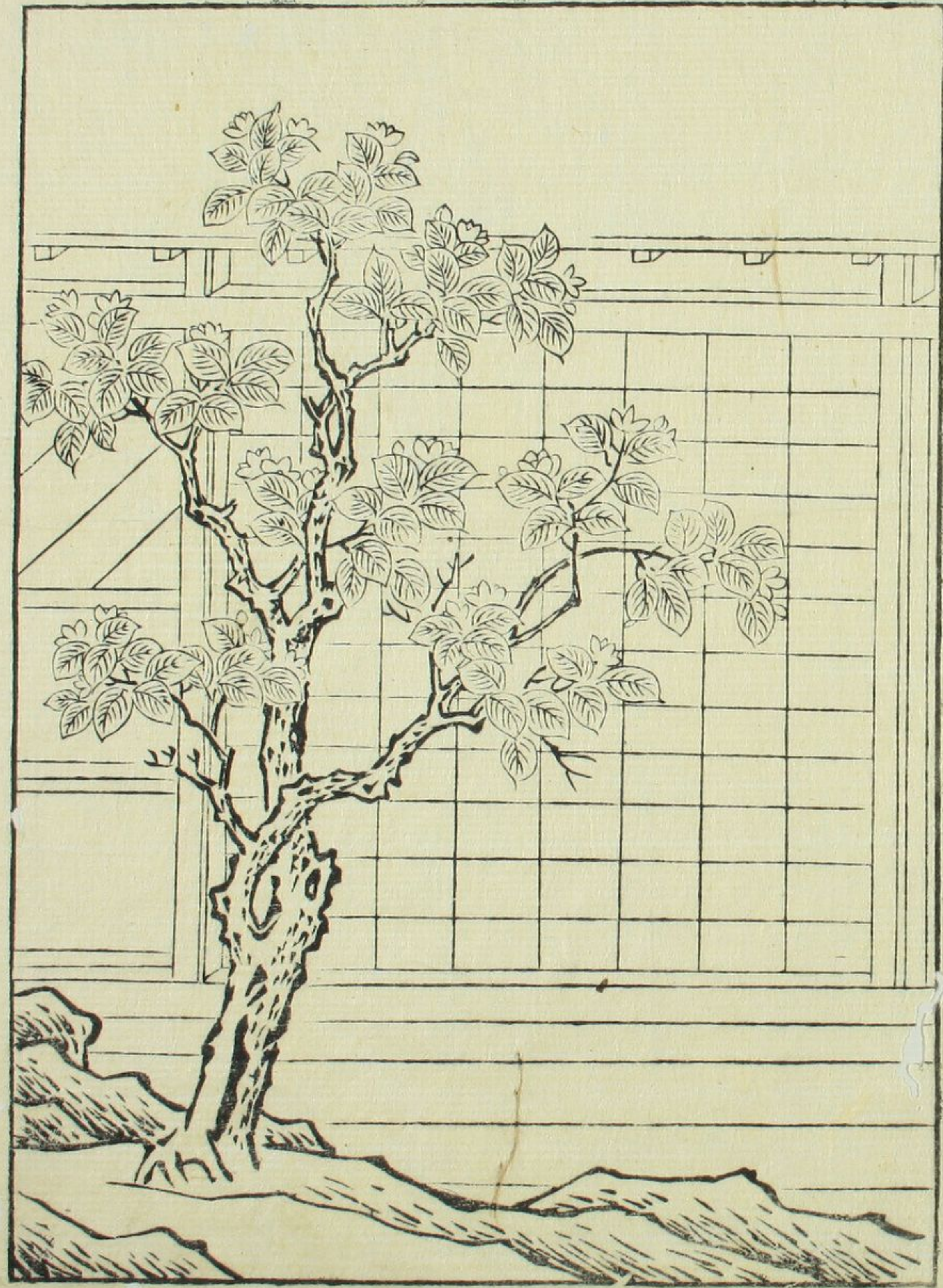
圓光大師傳
七八

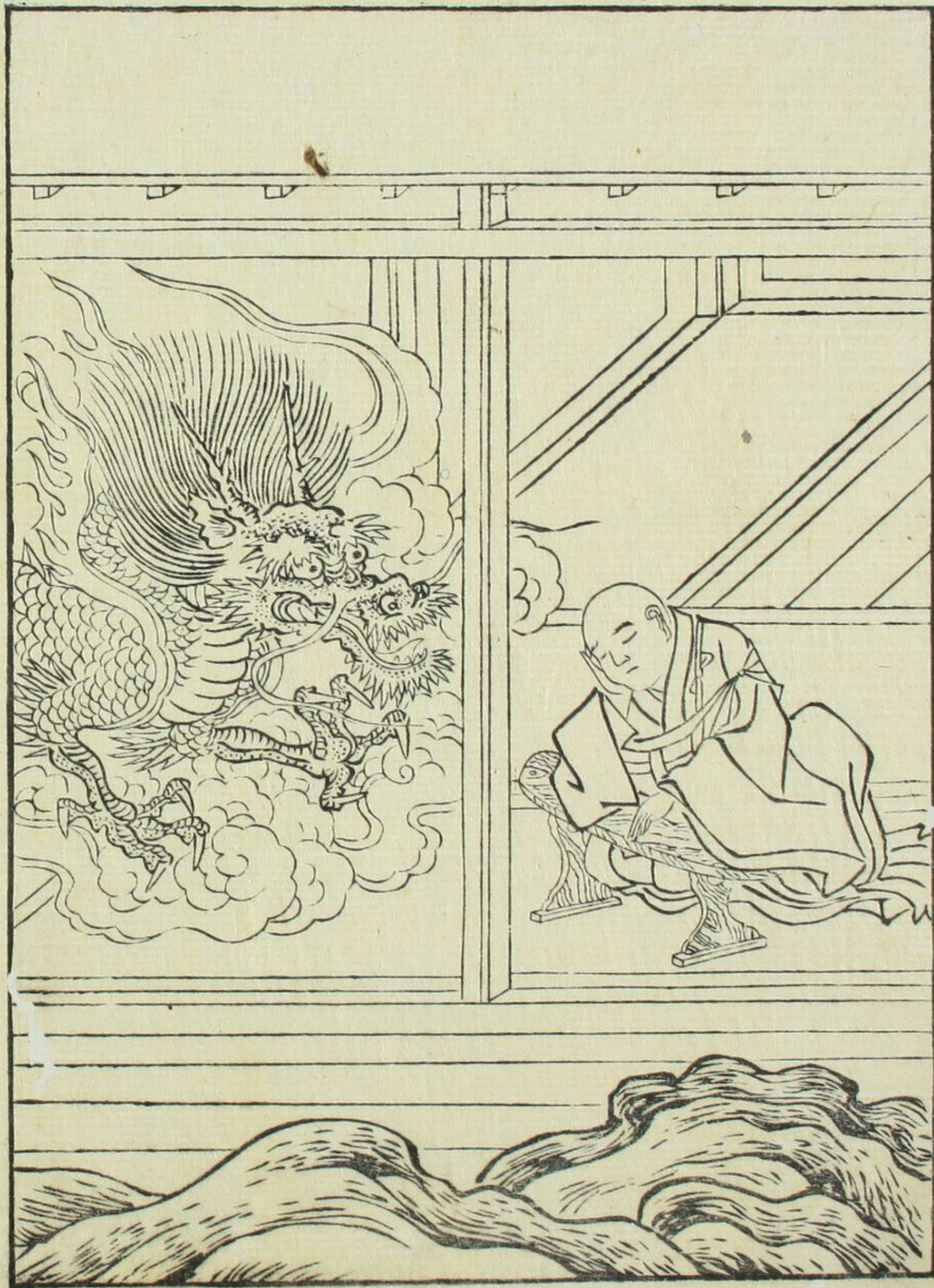


よかつらとくまきををひろめ給さ。そのちち受買三藏。
震旦のく安帝義熙十四年三月十日より揚列
謝司宣寺よ護淨華嚴法堂をくくく華嚴經を譯
し給。た堂のまへにききた池あり。毎日よ青衣あり
二人の童子あり。よくくちの故くく。よき故あり。
くくれどもけの産へなる。くく入る。強故譯をい
まこのちちのくく後なる。くく経ひくくく。後をくく侍
よあり。くくく。神よ。後をくく侍

き家よ。くく。上人の被海よ。くく。龍神を感
き。先ぬまひる。くく。くく。

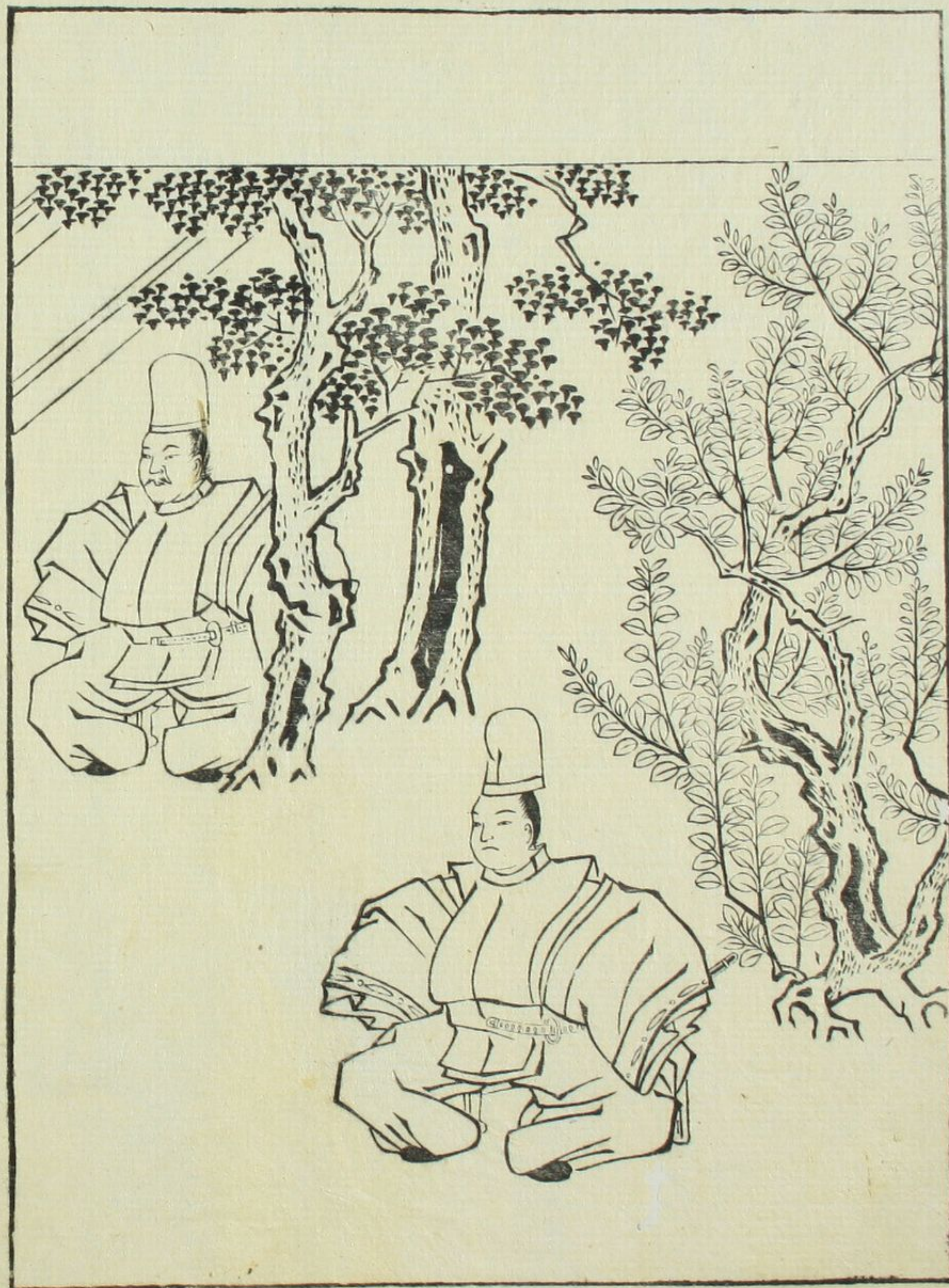
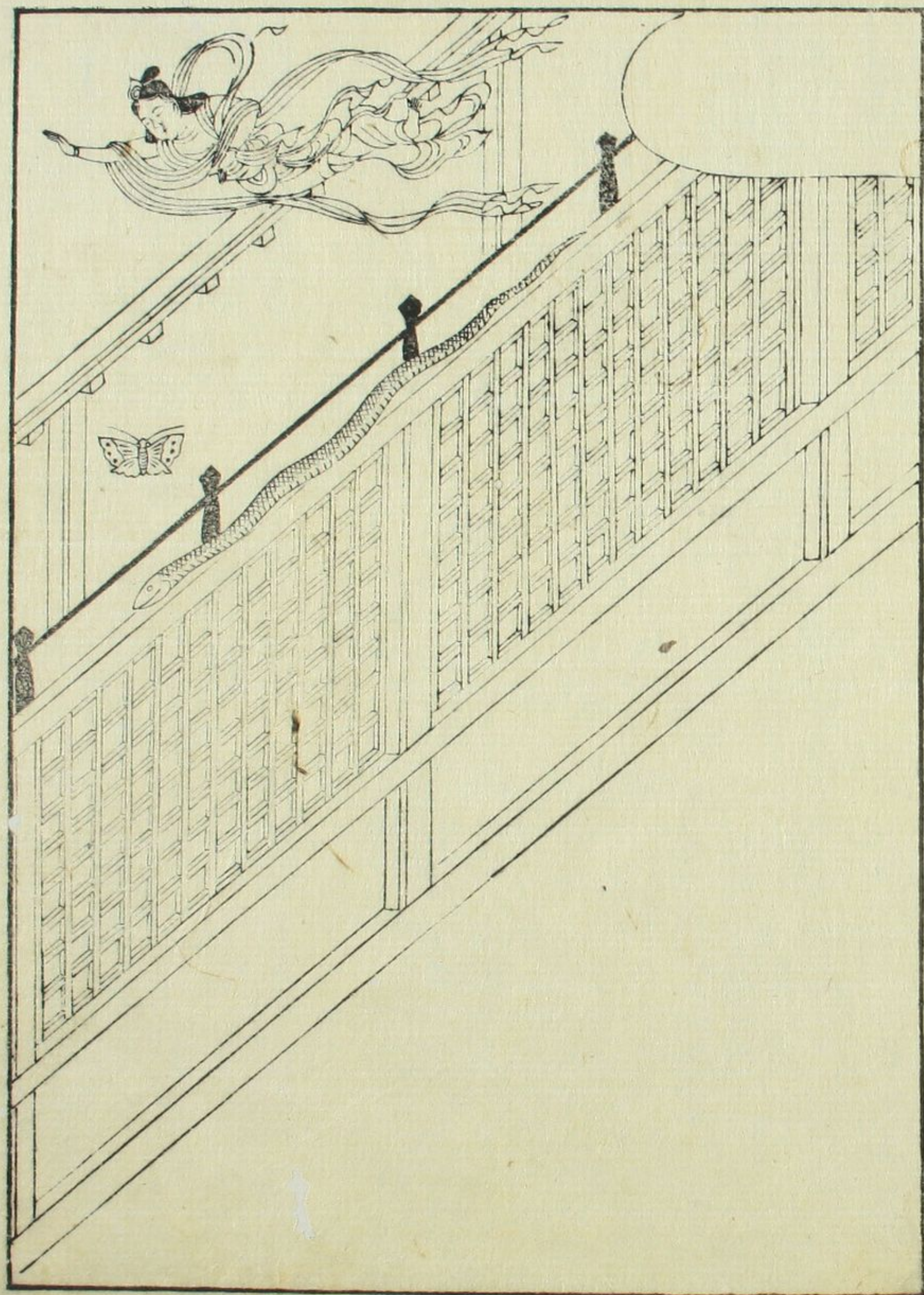


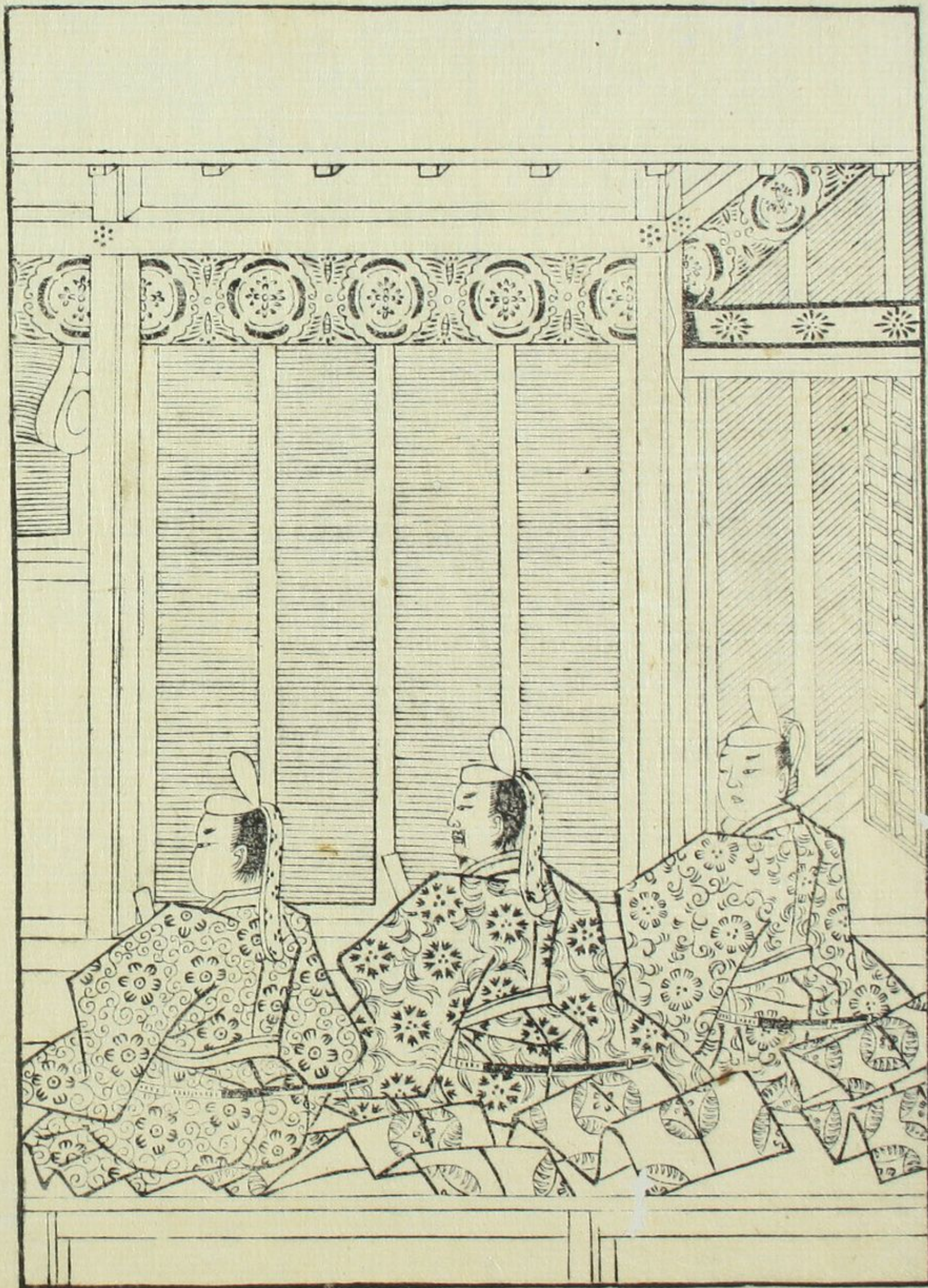
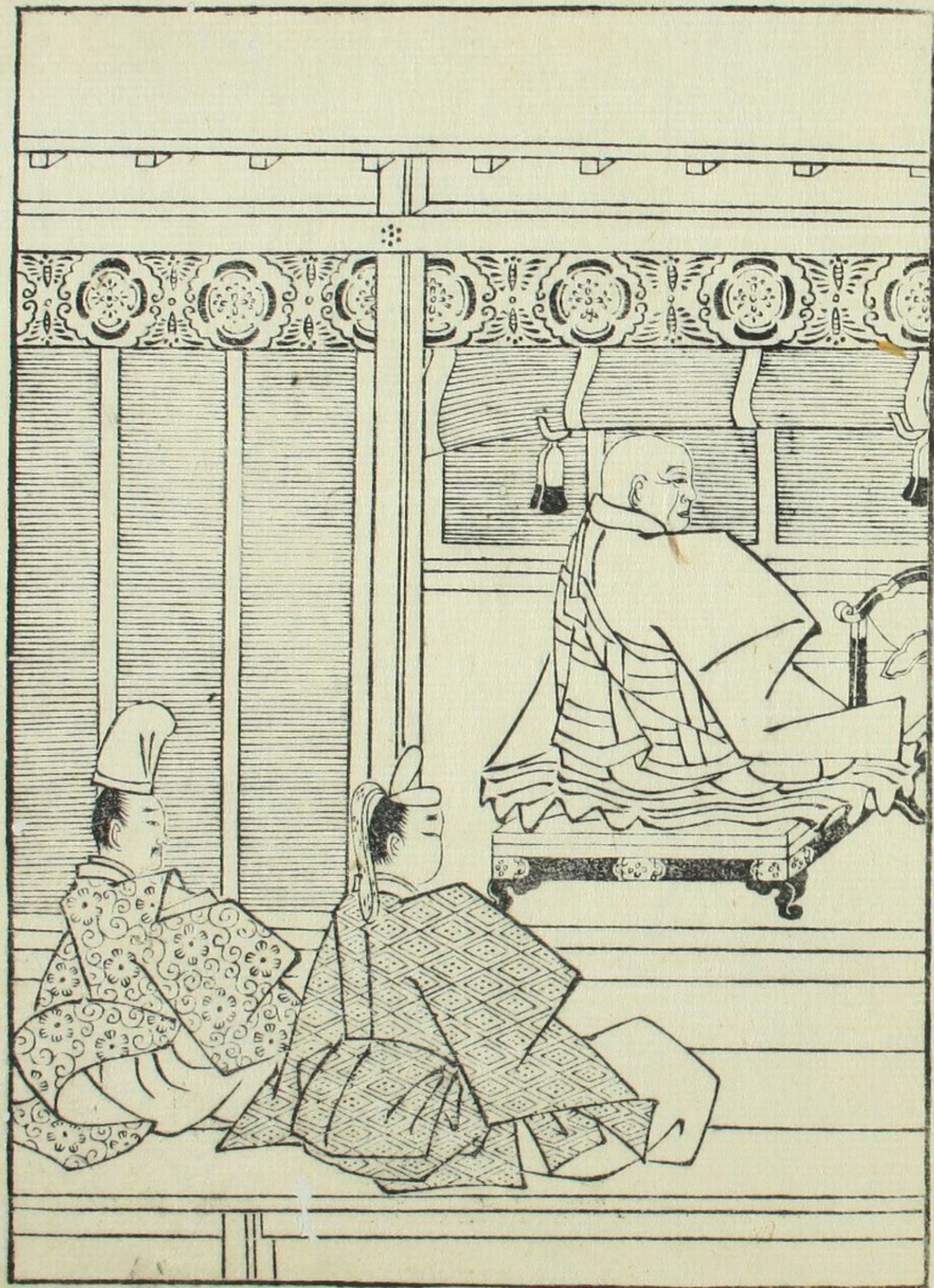


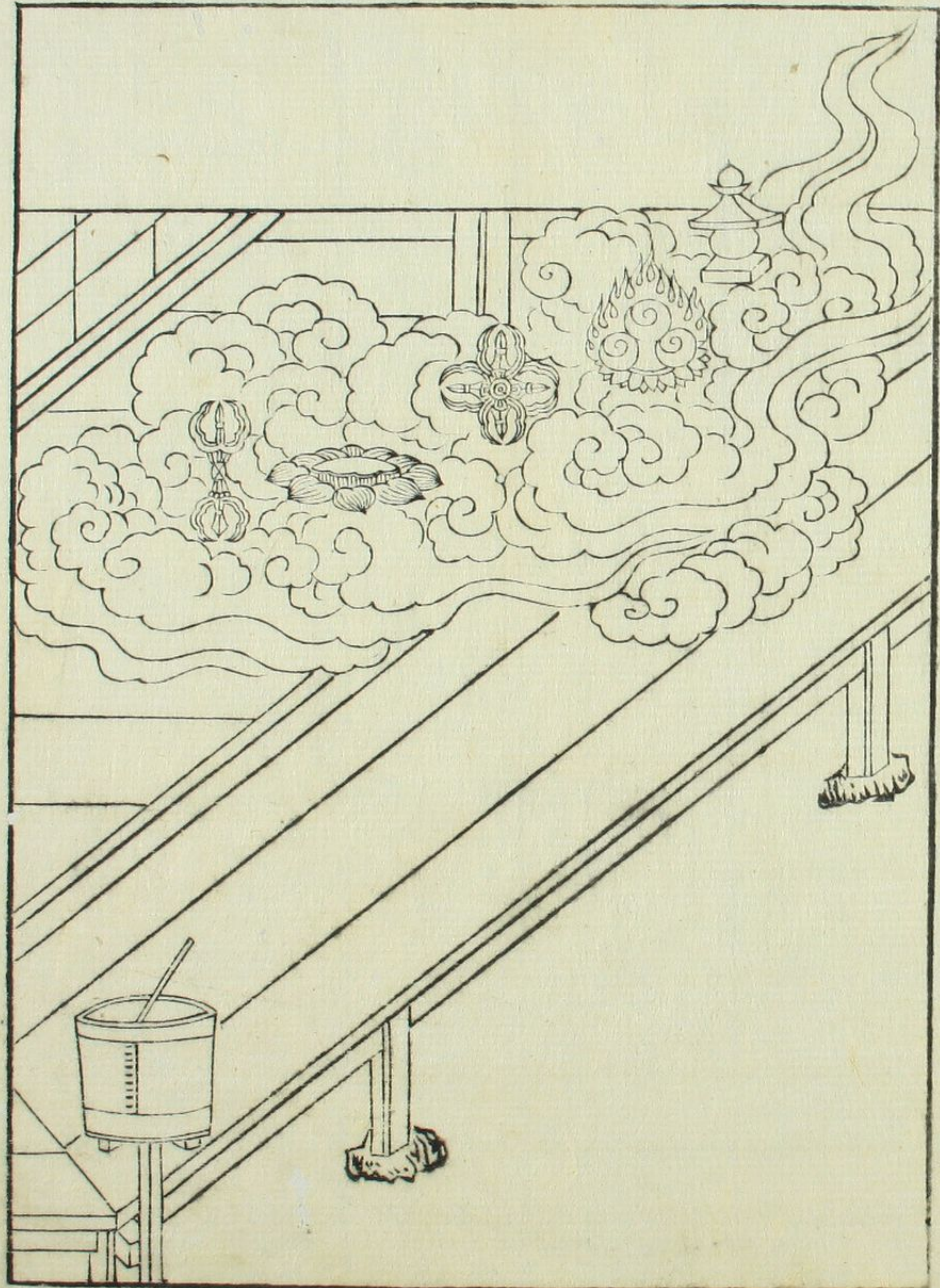


上西門院じやうさいもんえんわく上人じやうじんの御ごおししくく念佛ねんぶつの法ほふ志し
 あらうあらうけりけりなりなり。或ある時とき上じやう念ねん法ぽふトトヤヤととれれ七しち箇かん
 日のあひひ説せつ戒かいありあり。後ご戒かいの奥おく方かた後ごの處ところ終はつりりよよの
 くらみくらみかかたたののととりり。七しち日にちりりああひひひひんんししううずず
 ときとき聴きけけたたのの字じ色しきありあり。人ひとああややももああふふややとと
 に結むすぶぶの日ひああららくく。よよくらくらなならら死しききりり。それ
 くらくら中ちゆうよりより。一いち乃のち蝶てついていて。そそののににののちちるるここるる
 人もああらら。天てん人のひとここららににててののちちとと身みののちちももあありり

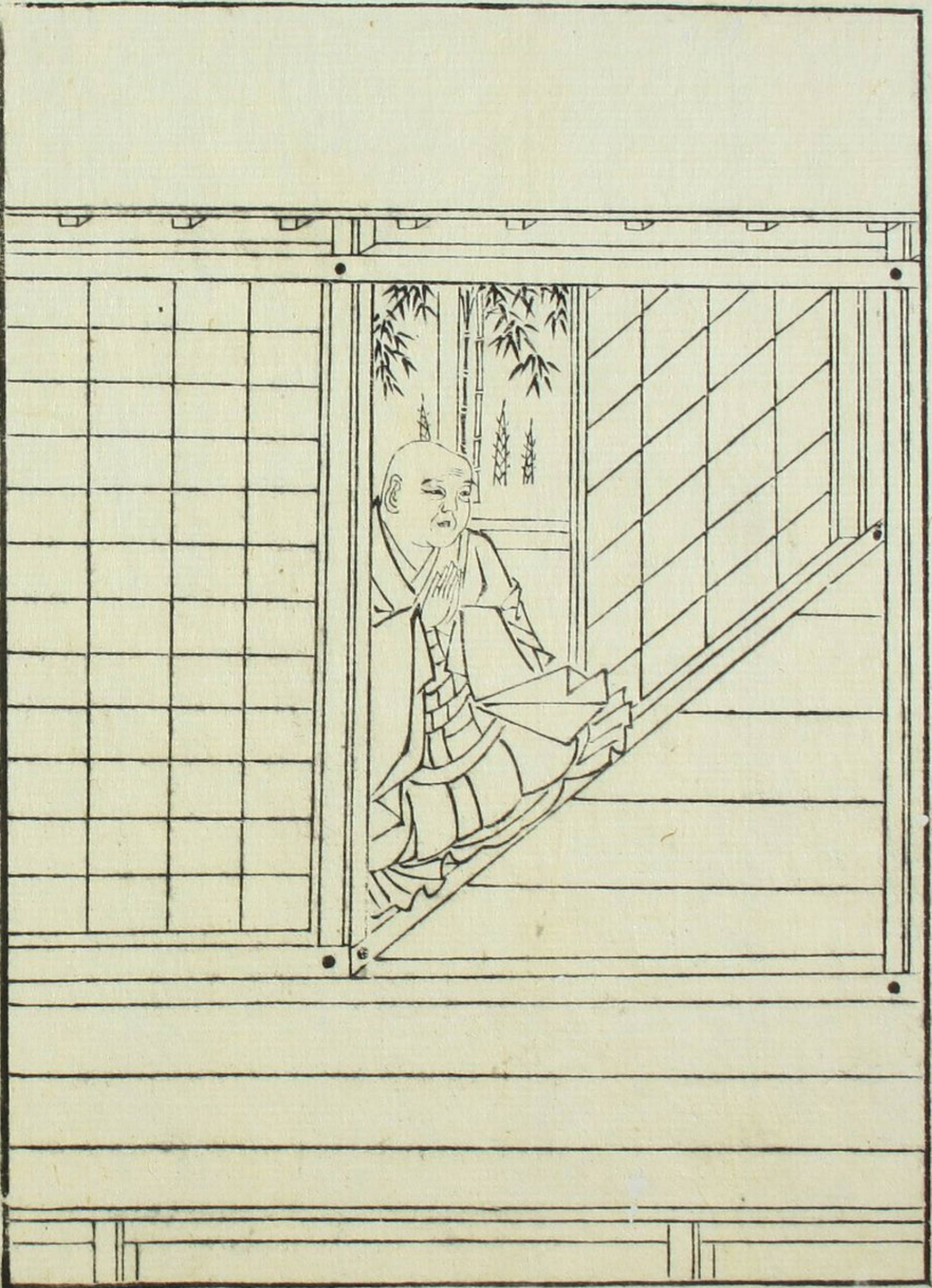
ありあり。昔むかし惠めぐみ表あらわ比ひ丘かみ武ぶ當たう山さんののくく元げん無む量りやう義ぎ經ぎやうをを傳でん授じゆ
 せしせし。よよををささくく青せい雀せき歡くわん喜き苑えんよよ生せいざざりり。ののれれ先せん蹤そうをを
 ねねふふよよ。ここのの小せう地ちもも。大だい衆しゆ乃のち結むす縁えんよよりりくく。天てんととりり
 しましまれれ傳でんるるふふやや。



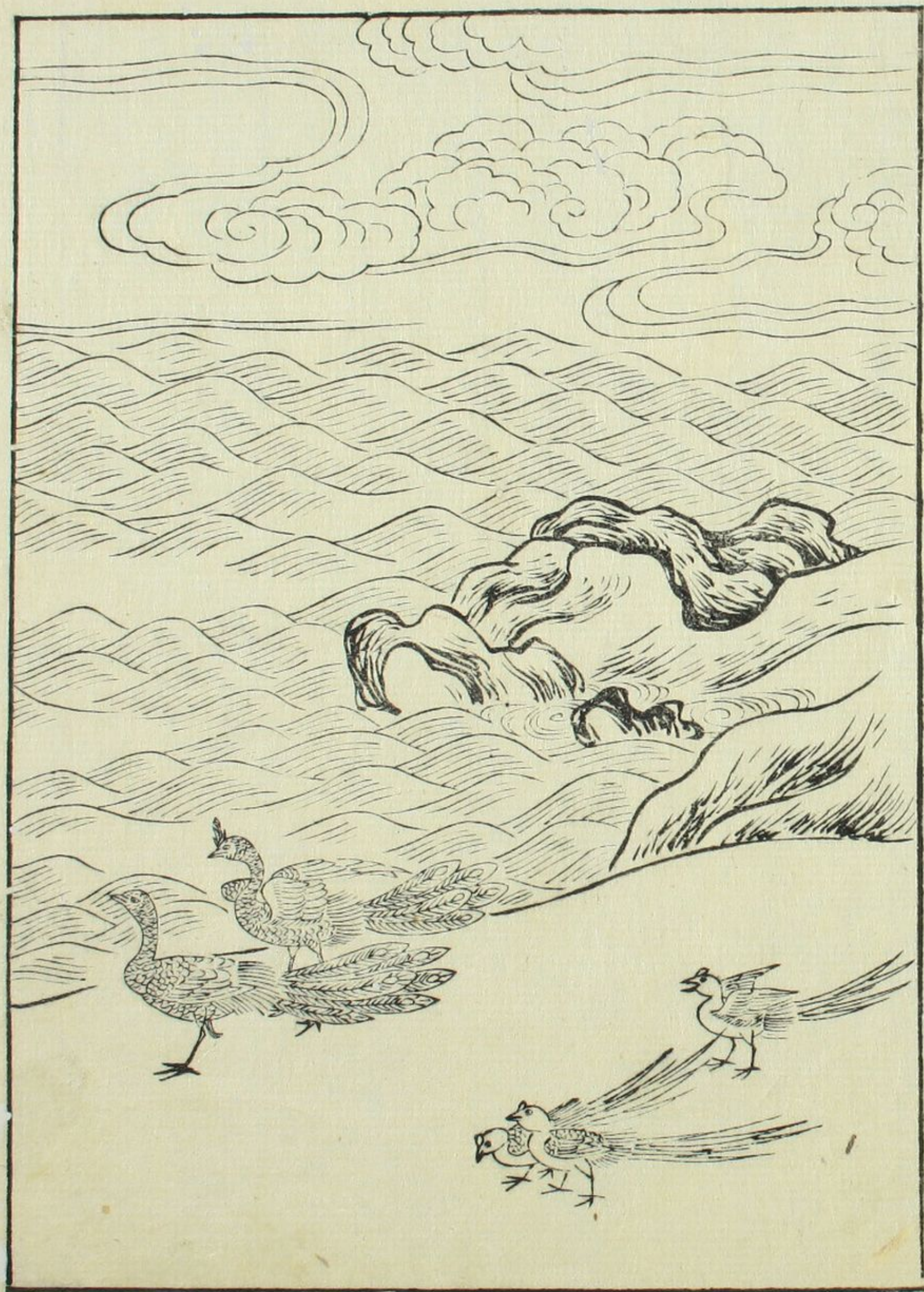




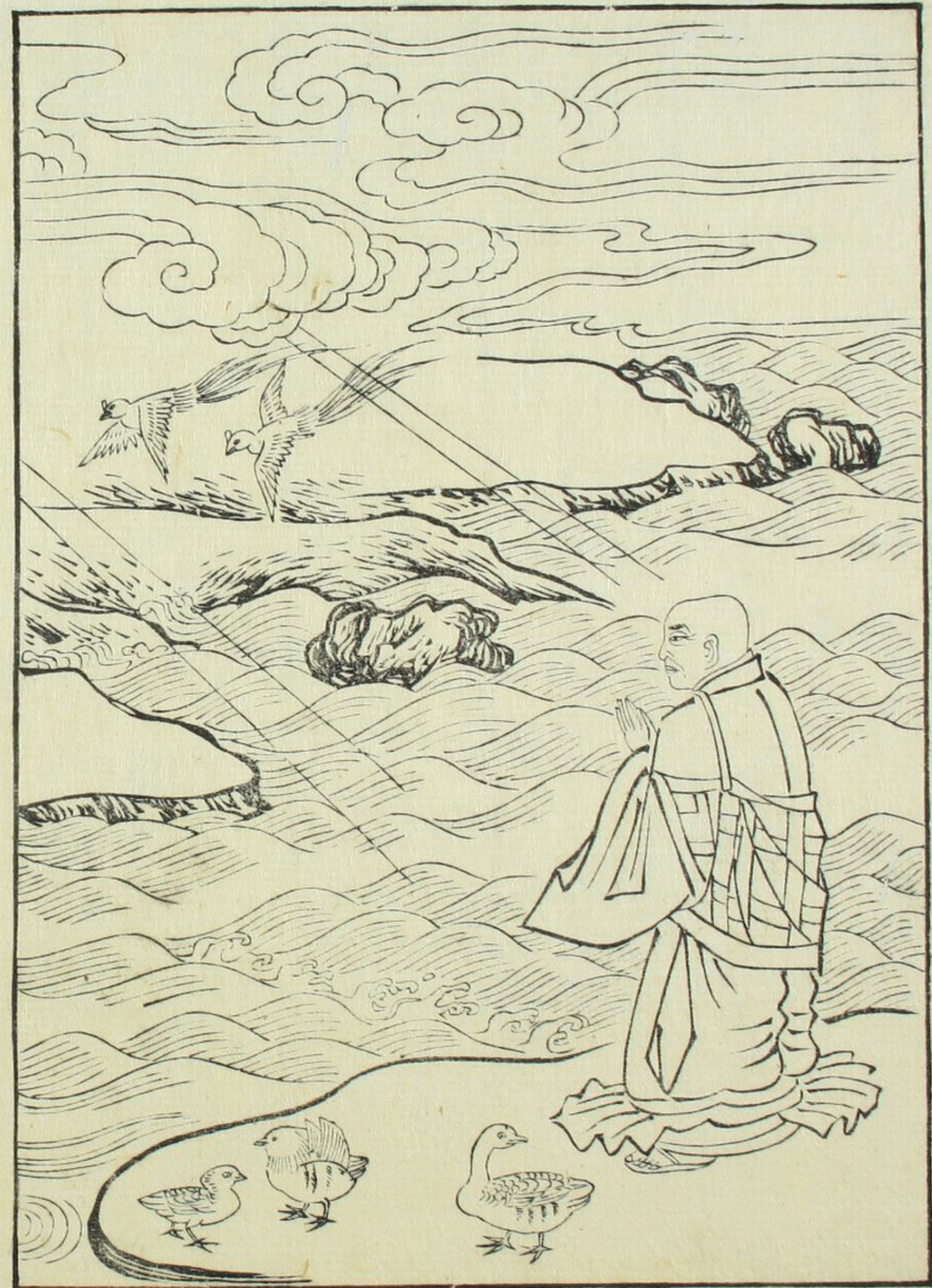
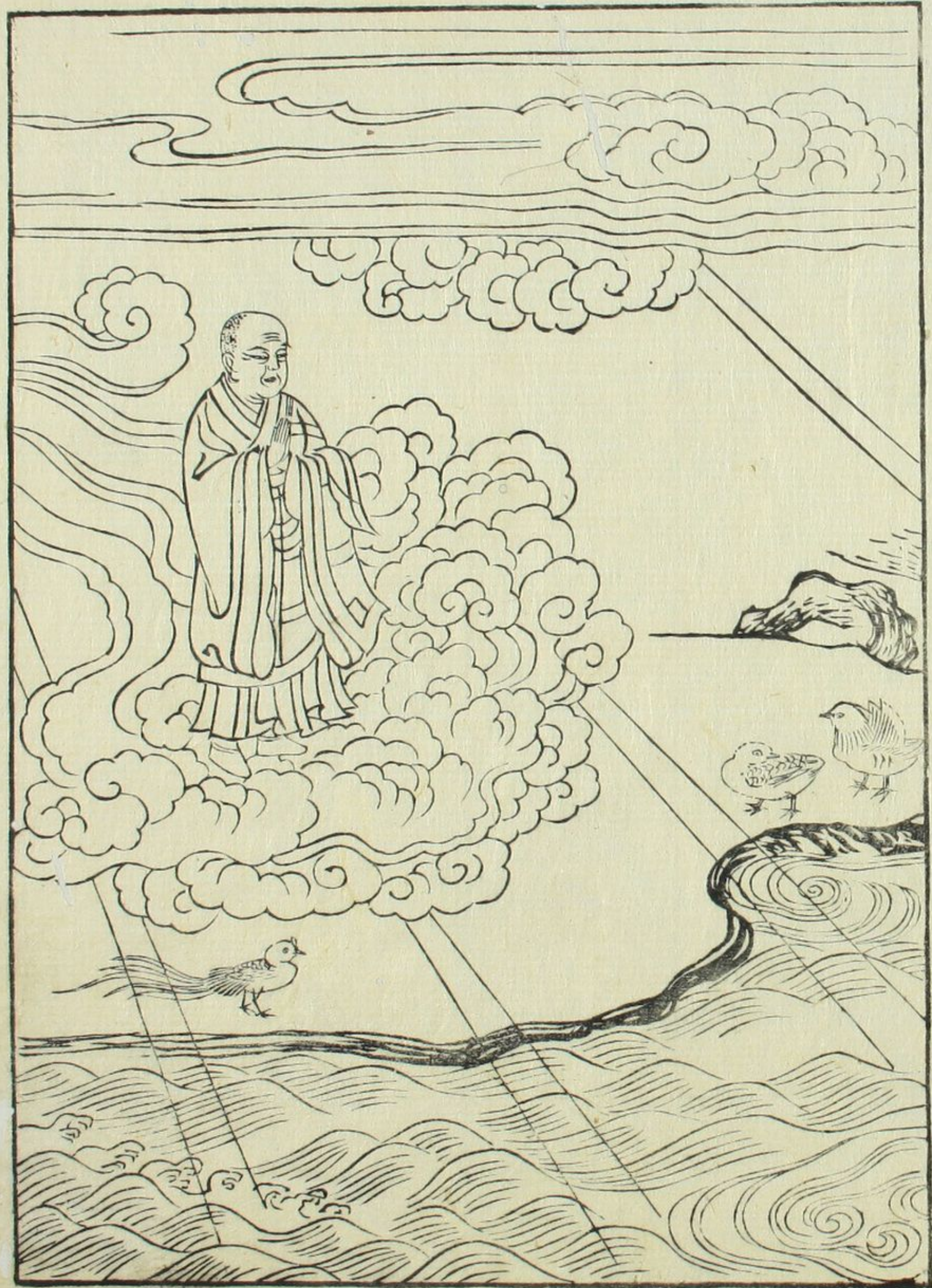
上人秘密の窓より。觀念の床より。鈴よ。ある
 とたい蓮華あつき。あるときハ錫磨を足。あるときハ
 寶珠を拜と觀心明了。あるときハ瑞相を眼前。ある
 時と。おろり多里。



上人ある夜爰々々々。大^{大山}あるぞ。峯^峰まのめえ
 たり。南^南山^山長^長遠^遠あり。西^西方^方よびる。山^山れあをどに
 大^大河^河あり。碧^碧水^水あり。波^波浪^浪南^南よなる。河^河原^原眺^眺
 々々々々。色^色深^深あり。林^林樹^樹荒^荒々々々。限^限数^数をきく。深^深
 山の腋^腋よのわり々々。家^家ふ西^西方^方見^見え。地^地へん地^地あり
 ろこ五^五丈^丈たりあり。中^中よ。一^一聚^聚の紫^紫雲^雲あり。
 大^大れ雲^雲とびまきり。上^上人のと。落^落よ。希^希有^有の
 思^思はあり。紫^紫雲^雲の中^中より。光^光



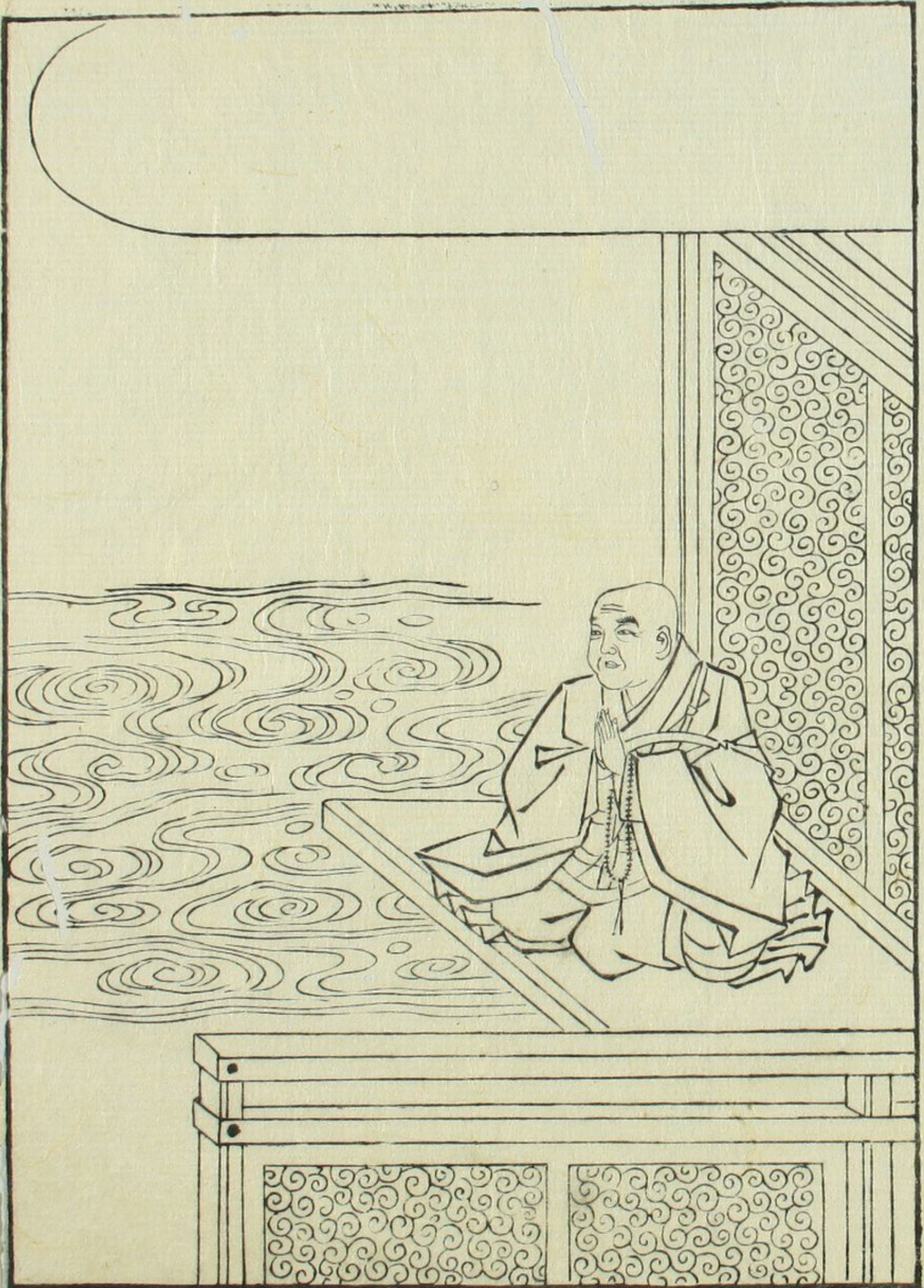
あり。上人の化導けどう。和尚の尊意そんいよがることあり。
らあり。上人の勸進くせんふよりく。称名念佛を
信し。往生せいじやうとぞ家いへをれ。一別いっべつよいちち。四海しよかいよあまのみ
し。前兆ぜんしやうのむのけのりのむのきのれのくの信をたらし
事。





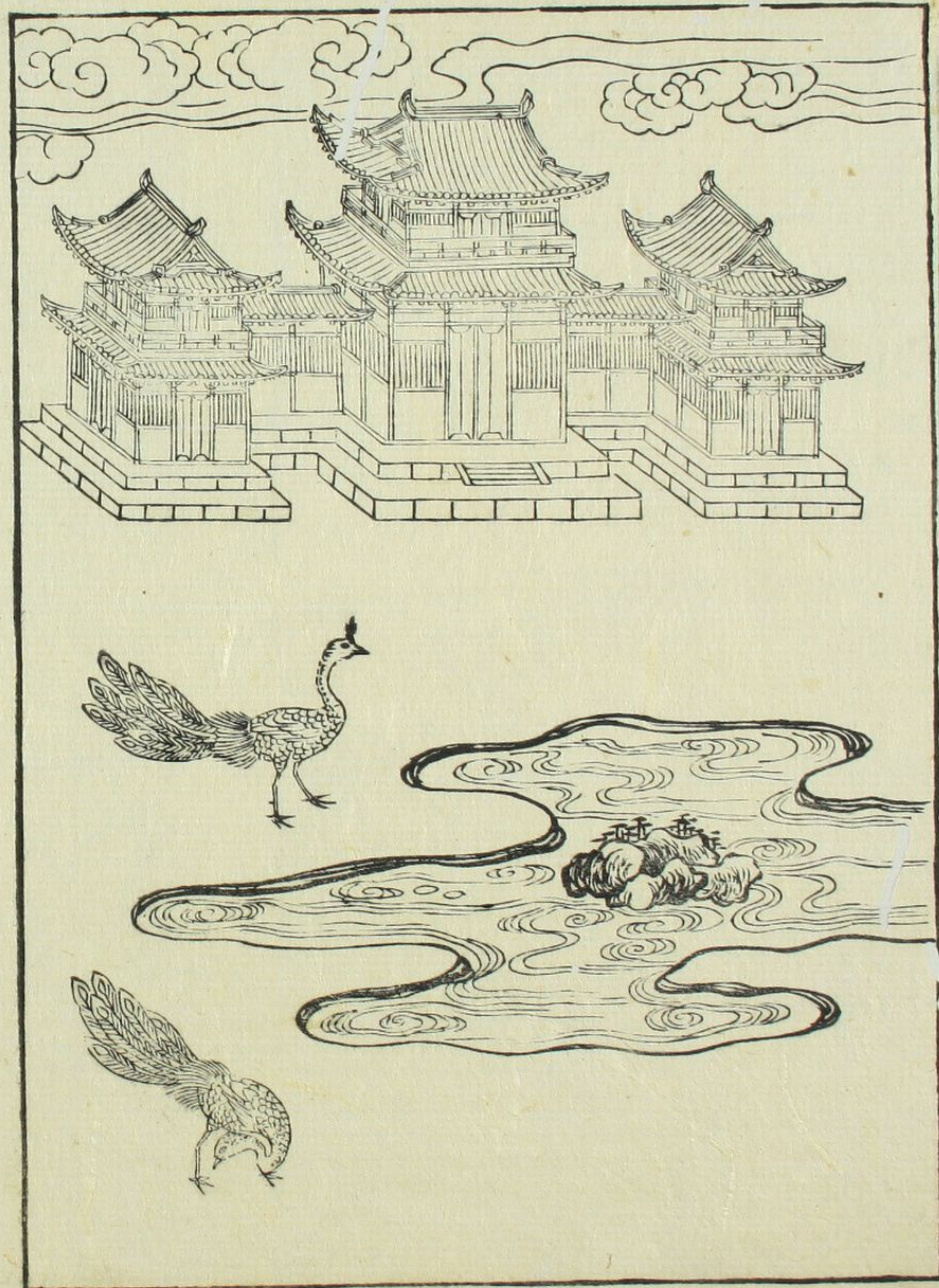
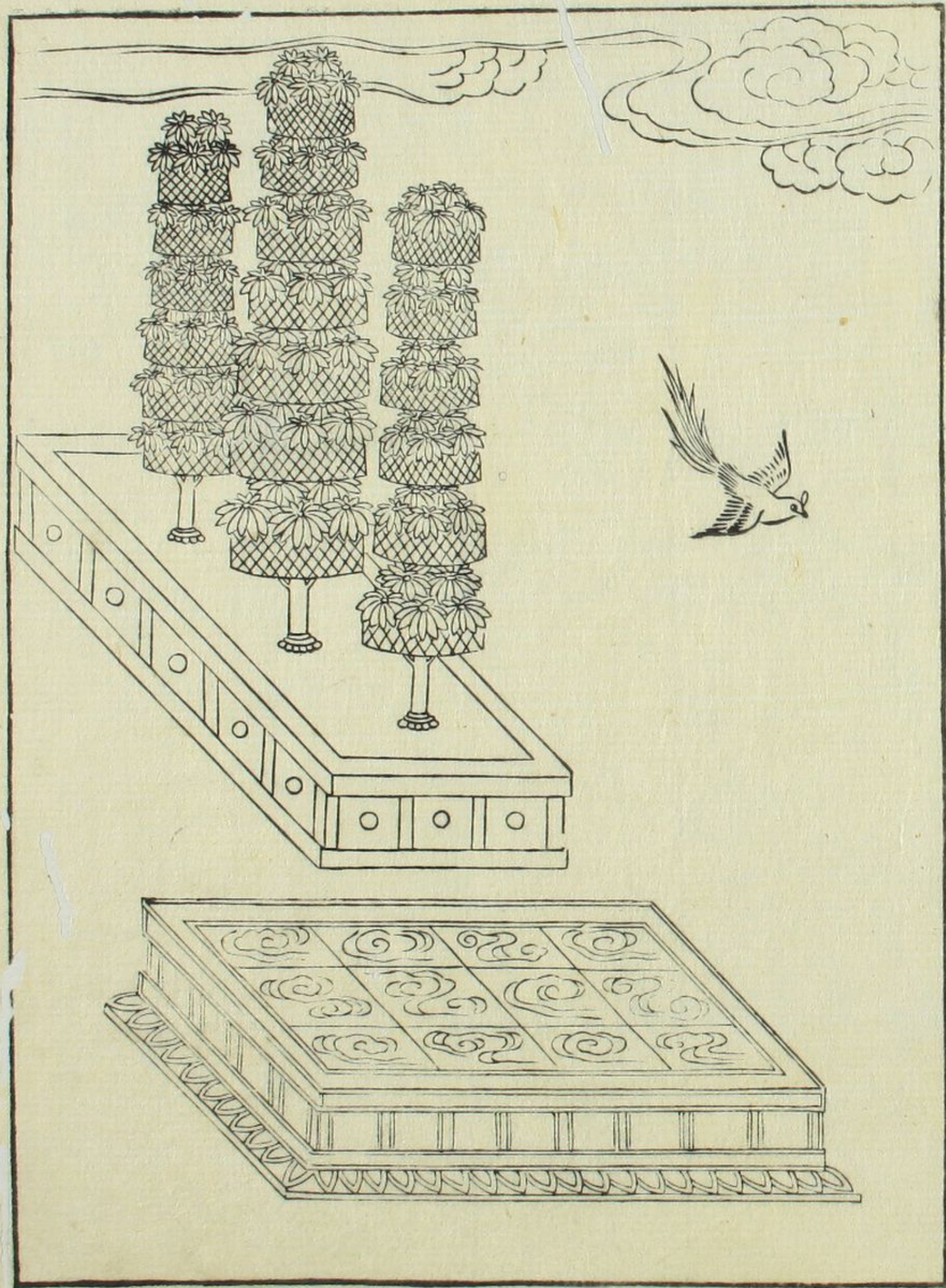
上人專修正行せんしゆしんぎやうなり。故ゆゑに。一心專念いんせんせんぜん切法せつぽうなり。故ゆゑに。
一いの法ぽうをよく稱しょう三昧さんまいを發はつし。故ゆゑに。生年せいねん六十じゅうじゅう六ろく。
建久九年けんきゅうくわんねん正月しげつ七日ななにち。別時念佛べつじねんぶつのあり。ようめめに。い。
ままの明相めいさうあり。此こゝに。水想すいさうを現げんし。のちのちに。瓊瑤じゆうぎょう
池ち。ととううの現げん前ぜんと。同どう二月にがつ。寶地ほうち寶池ほうち寶樓ほうろうを
見み多たままふふ。それそれよりよりのちのち連つてつ。小持相せうぢさうあり。或ある時ときに。花はなの
眼まなこよりより。光ひかりおおとと。眼まなこよりより。瓊瑤じゆうぎょうあり。ここのちのち瓊瑤じゆうぎょうの法ぽうに
おおととうう。法ぽうににああららたた花はなあり。寶籠ほうろうととうう。或ある時ときに。

ももうう一いっつつに。西方さいほうををるるややりり。故ゆゑに。寶樹ほうじゆははるるりりてて。ささららに。
下げ心しんりりままつつ。或ある時ときに。座ざ下げ寶地ほうちととなり。或ある時ときに。佛ぶつ
の面像めんざう現げんし。或ある時ときに。三尊さんそん大身だいしんをを現げんし。或ある時ときに。勢至せし本ほん
現げんし。故ゆゑに。すすみみらら畫え二にりり。念ねんふふくく。ここれれををううけけしし。
ととううももうう一いっつつに。或ある時ときに。寶鳥ほうちゆう琴きん笛ふえ等らうにに種しゆととううををまま
くく。ささららに。自筆じひつにに三昧さんまい發得はつとくの記きととうう。
あり。此こゝに。記きととううに。存ぞん目めににああららたた披露ひやくろあり。勢觀せいけん房ぼう
遺跡いせきをを相承さうじやうののちち。ここれれをを披ひ見けんききつつ。此こゝににささららにに跡せき



の明遍僧都ウヘンキョウニの記をひきき見く随珠ズイシュの法ホウを。
あまのりきりたし。





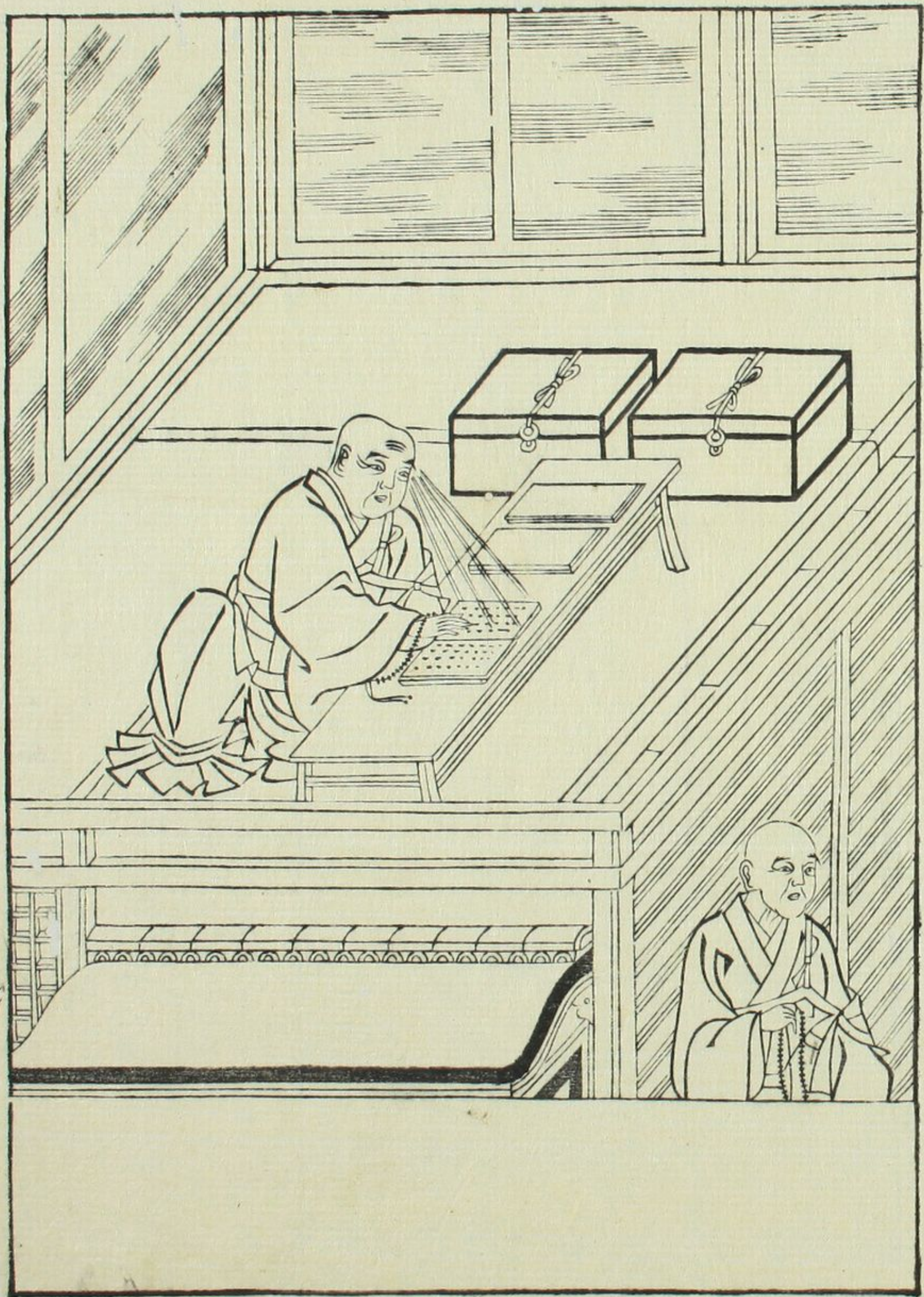


法然上人行状畫圖第八

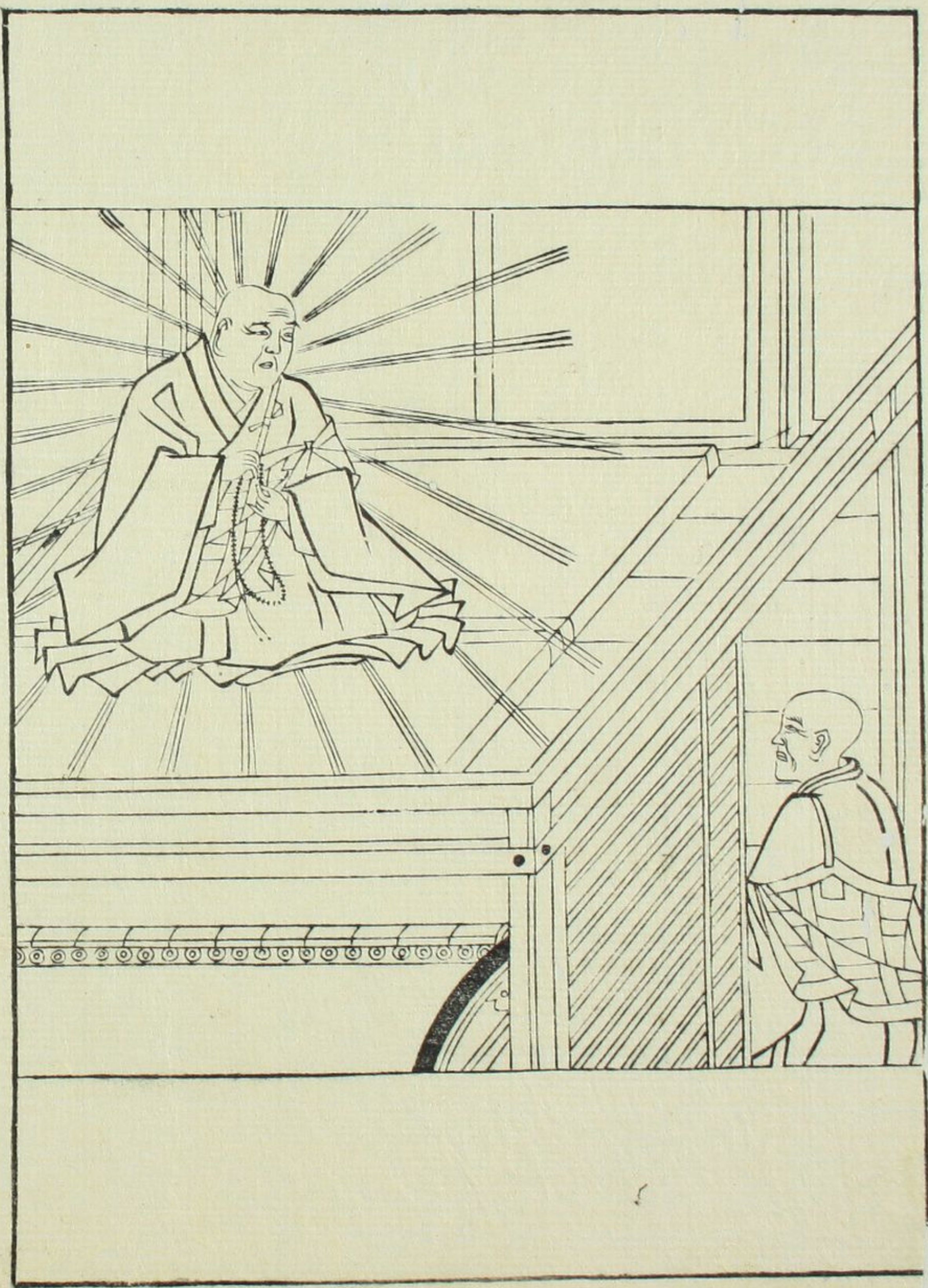
上人三昧發得のち暗夜より燈燭の光をいとも
眼より光を感ずるなり。聖教をひきた室の内外を見
給ふ。法蓮房をもあつり。これを拜し。隆寛律師
も。こゝには事茂信仰せしむるあり。ある時秉燭の福よ。
上人のまに聖教を披讀し給ふをそのまに就ん。
正信房のまに燈の光をともせしむるあり。まに就り
けり。と。おがつれくして。ひきた室の中を伺ふ。た

乃以目其... 光を... 見... 深密... 念佛... 老骨... 海用

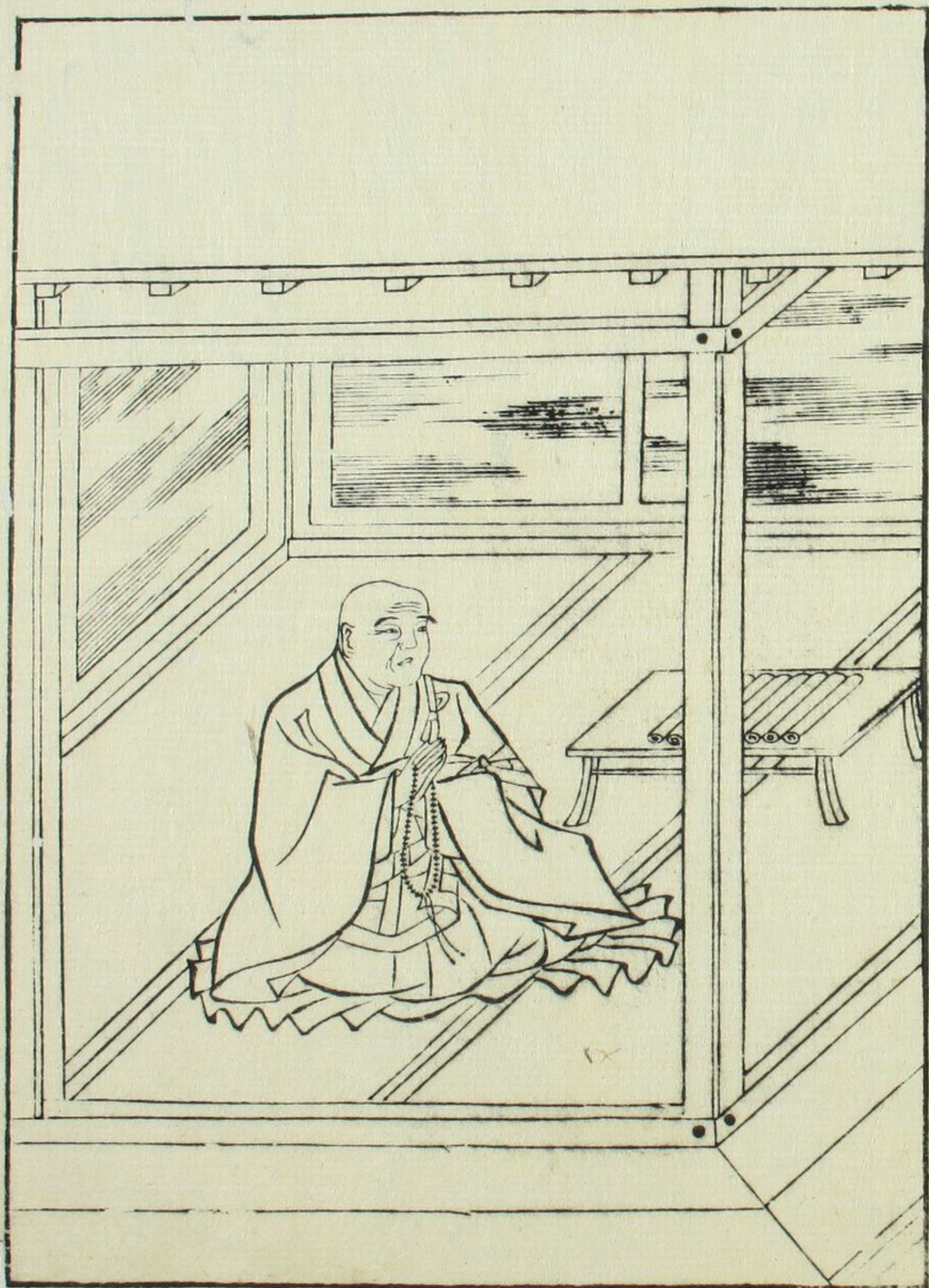
とせよ... 信房... 身光赫奕... 暮... 身光... 進退... 思... 答申... 者...



各をもか極よなりとすまうとせぬやじとせ。信しぬる。
 慈恩^{トカシ}じう^{トカシ}玄禁^{トカシ}の門下^{トカシ}にありと。眼より光をんを
 ちてよ。家^{トカシ}聖教をひたし。は。西列^{トカシ}大師^{トカシ}とをな
 志^{トカシ}とをなを其^{トカシ}徳^{トカシ}よ信^{トカシ}仗^{トカシ}し。あまきく師^{トカシ}範^{トカシ}と
 し。強^{トカシ}ま。いま色^{トカシ}列^{トカシ}り。志^{トカシ}く。未^{トカシ}代^{トカシ}り。と。い。ち。も。奇^{トカシ}
 精^{トカシ}を。い。し。と。上^{トカシ}古^{トカシ}よ。恥^{トカシ}づ。海^{トカシ}を。や。



あると此上人念佛志くたりもきつて勢至菩薩來現
 一強小輩ありきりそのあつけ一丈練あり書之よ命
 志く。相をうつ一とて終つれあぐななきとあまは。
 申され奉りたま。





上人ありし由よ。堂をもちいせり。之り絵あり
 多に弥勒の三尊繪像あり。本像ありあり。極
 をんるれ板敷も。天井も。流し。て。おりあり
 たり。其は。拜見し。給ふ事。は。は。式事。なり。あり。

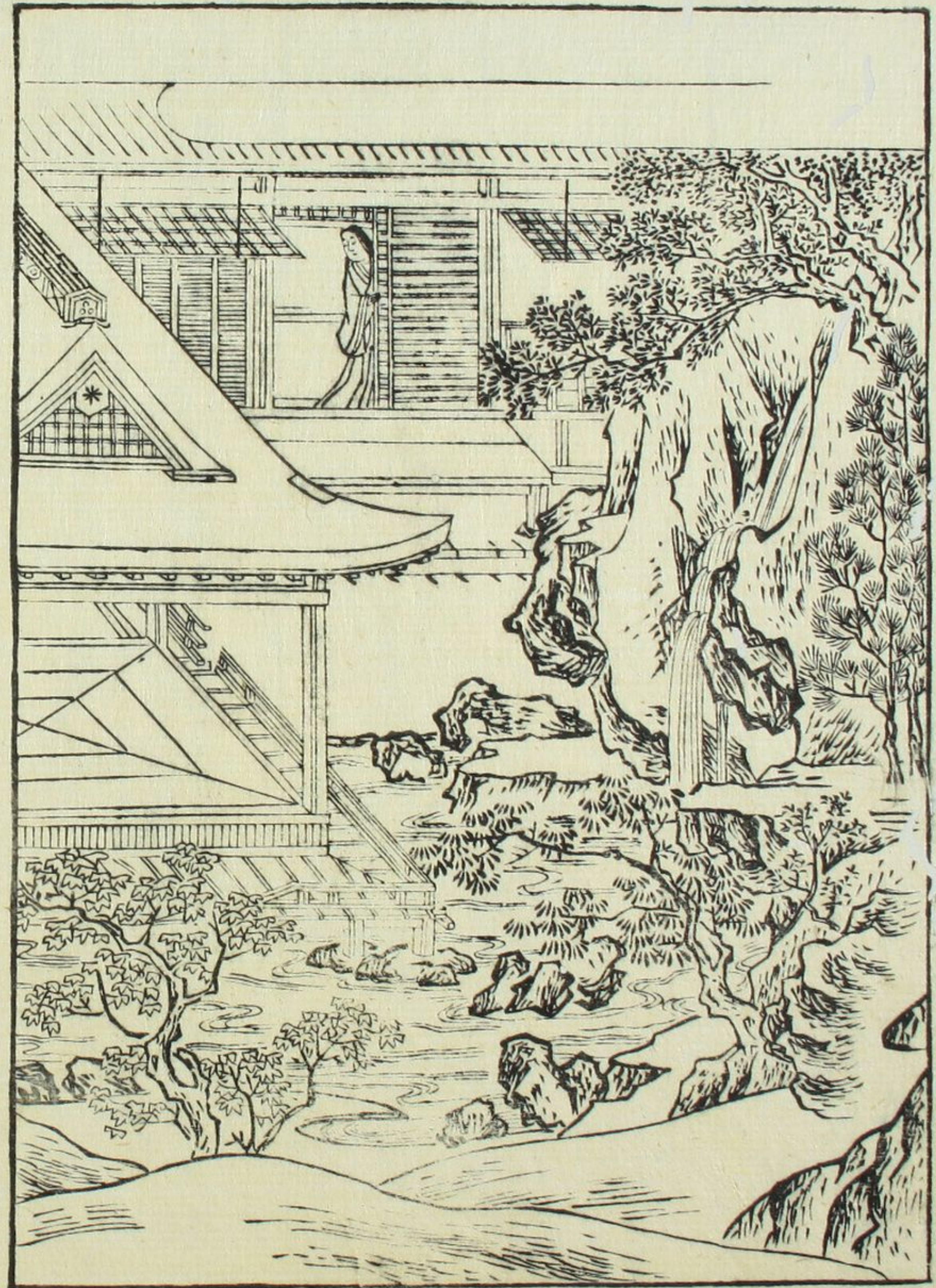
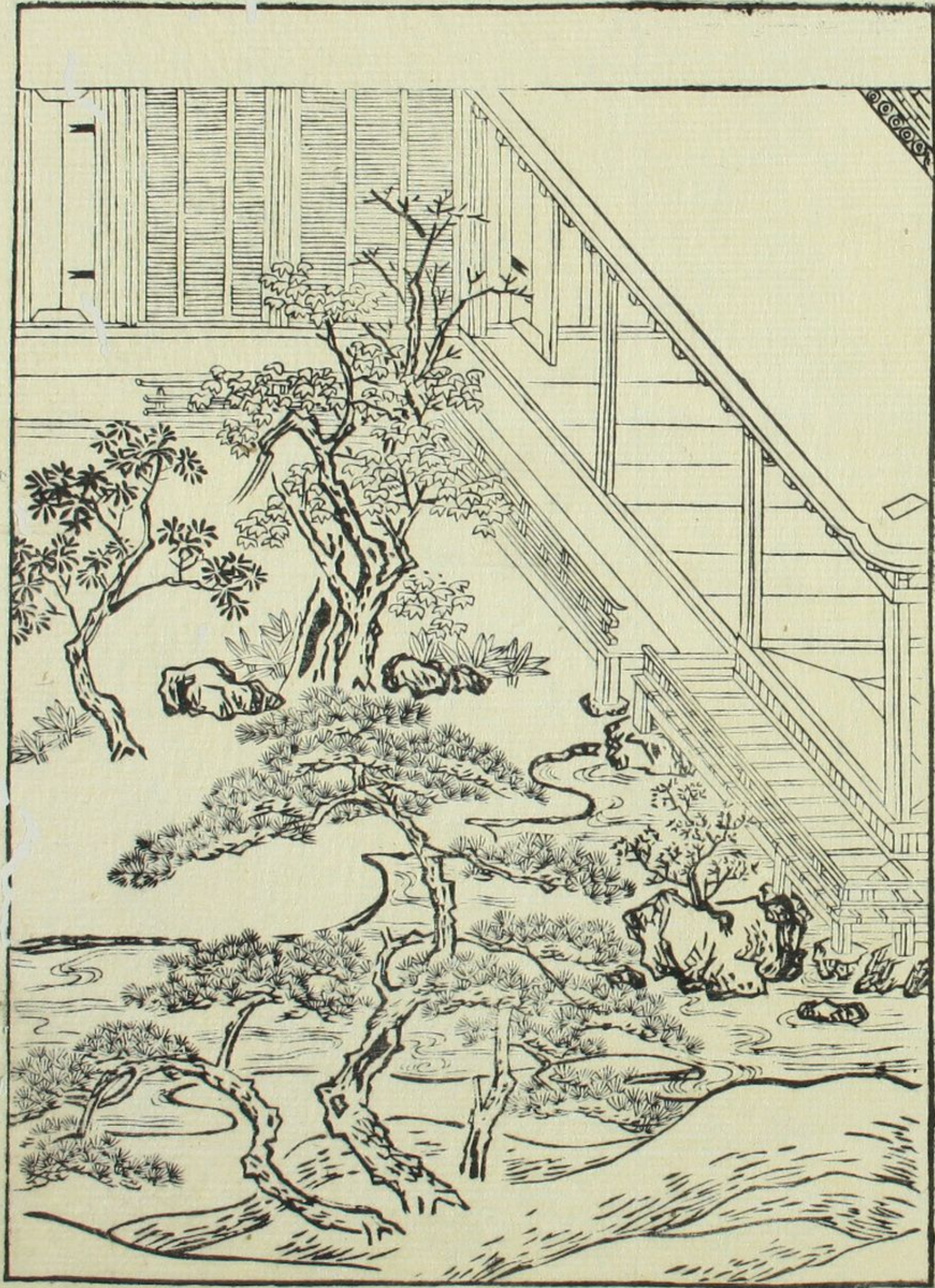


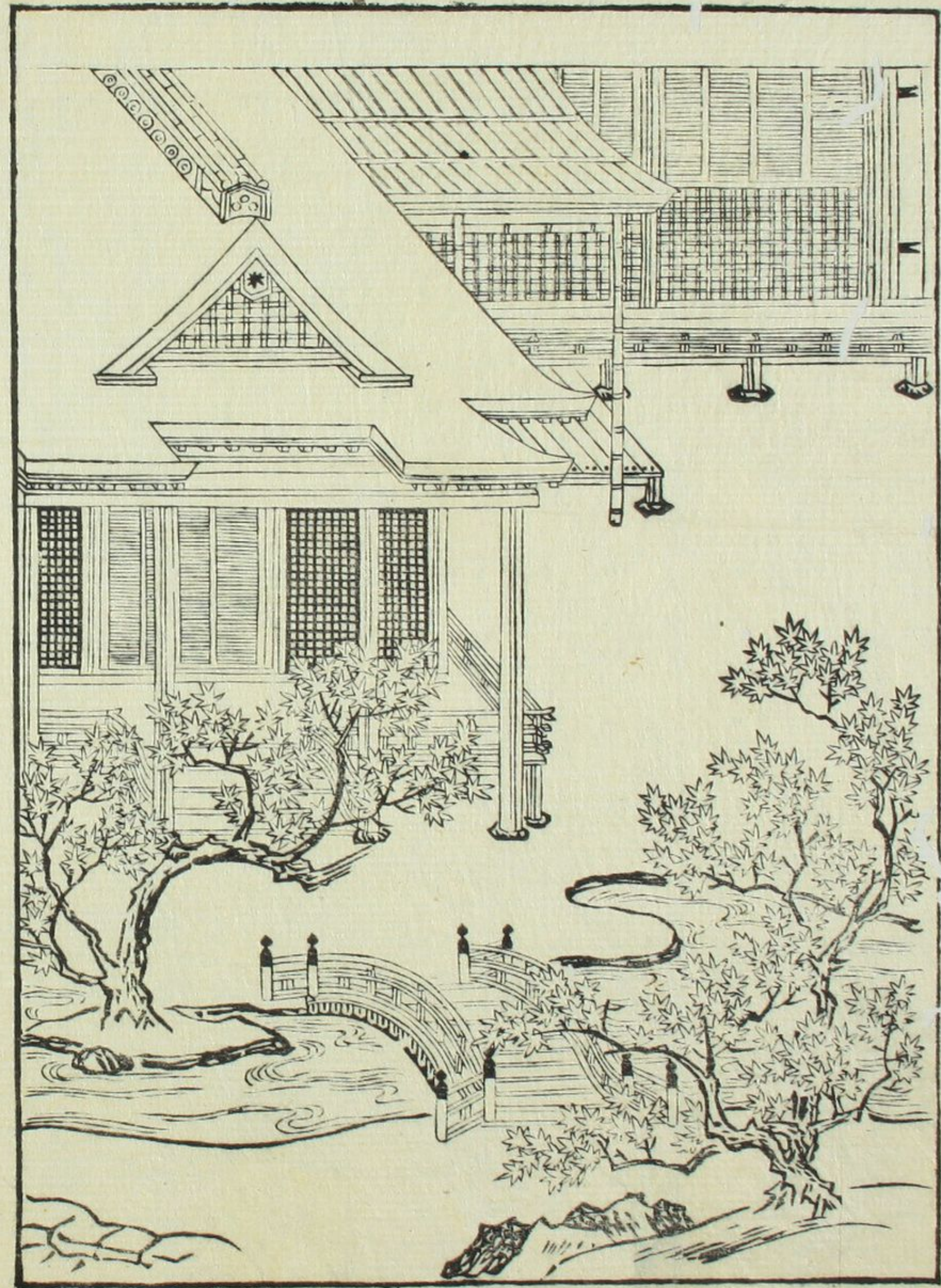
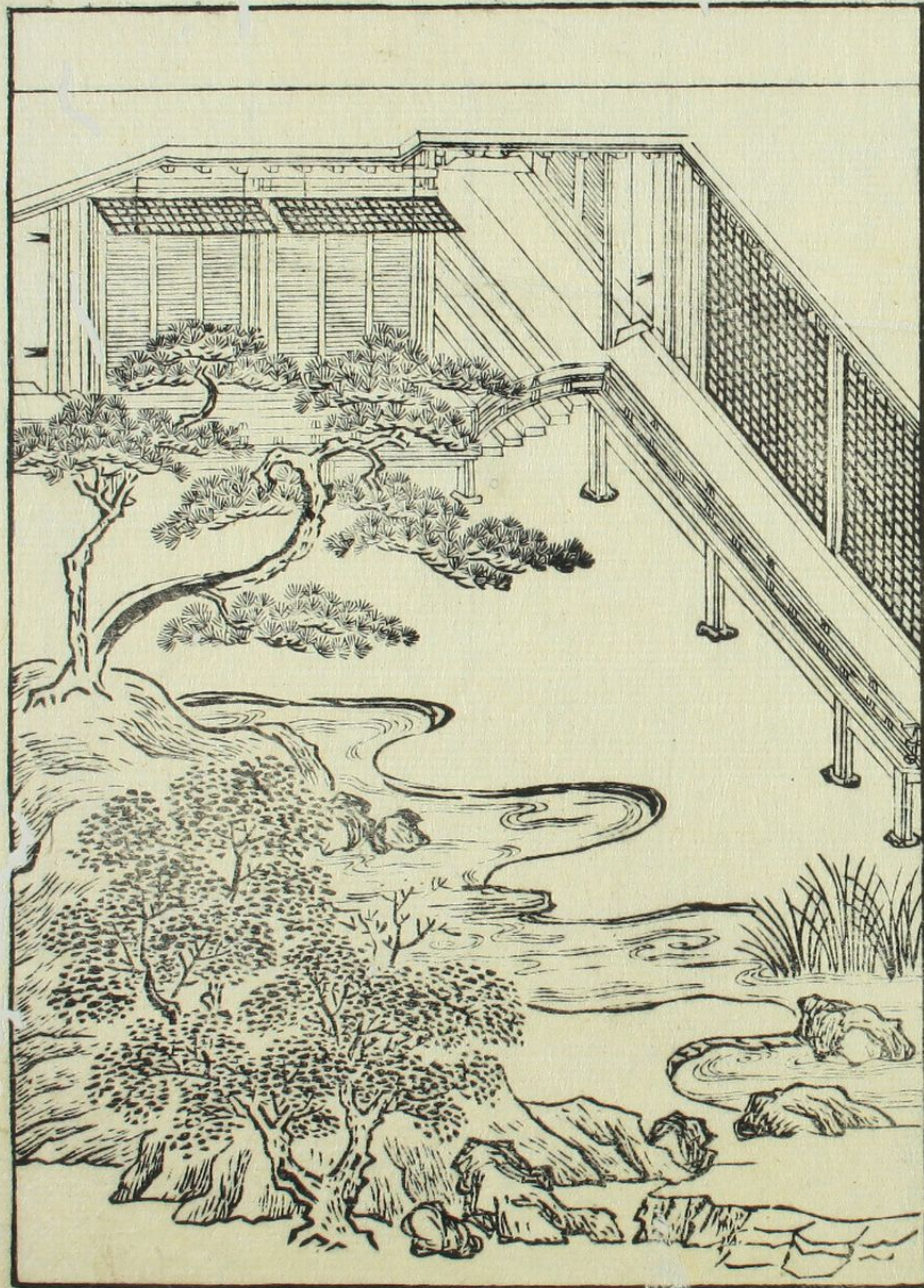
とくなくふ。別時念佛を修し。不断の稱名法と
 ひるし。まこと上人の在せり。おられし。そのあ
 り。上人元久二年正月一日より。靈山寺より。三七日
 の別時念佛を修し。先強あり。燈あり。志あり。光あり。あ
 り。才五夜より。行なはる。行なはる。勢至菩薩あり。あ
 り。列したる。行なはる。法蓮房あり。あ
 り。あを拜して。上人まこと。あを申る。あを事侍人
 と答給。餘人いさ。に拜を修る。



同年四月五日上人（僧）月（月）宿（宿）敷（敷）小（小）ま（ま）り（り）終（終）く（く）敷（敷）慰（慰）法（法）
後（後）あり（り）退（退）者（者）の（の）と（と）た（た）禪（禪）問（問）庭（庭）と（と）り（り）く（く）む（む）し（し）あ（あ）り（さ）
せ（せ）終（終）く（く）上（上）を（を）礼（礼）拜（拜）し（し）ひ（ひ）ひ（ひ）を（を）比（比）よ（よ）は（は）も（も）く（く）願（願）ひ（ひ）
さ（さ）く（く）あ（あ）り（く）お（お）ま（ま）し（し）せ（せ）終（終）魚（魚）り（り）派（派）よ（よ）む（む）き（き）ひ（ひ）く（く）仰（仰）
ら（ら）終（終）く（く）上（上）人（人）地（地）を（を）ら（ら）あ（あ）れ（れ）く（く）虚（虚）空（空）よ（よ）甚（甚）た（た）を（を）あ
こ（こ）う（う）あ（あ）り（り）頭（頭）光（光）現（現）し（し）て（て）お（お）終（終）は（は）る（る）を（を）た（た）え（え）ん（ん）ど（ど）や
と（と）右（右）京（京）権（権）大（大）丈（丈）入（入）道（道）法名 戒心中（中）細（細）言（言）阿（阿）闍（闍）梨（梨）尋（尋）玄（玄）号本 蓮房
人（人）の（の）あ（あ）よ（よ）供（供）ら（ら）る（る）。こ（こ）の（の）見（見）え（え）ん（ん）ど（ど）ま（ま）つ（つ）ま（ま）つ（つ）家（家）より（り）派（派）

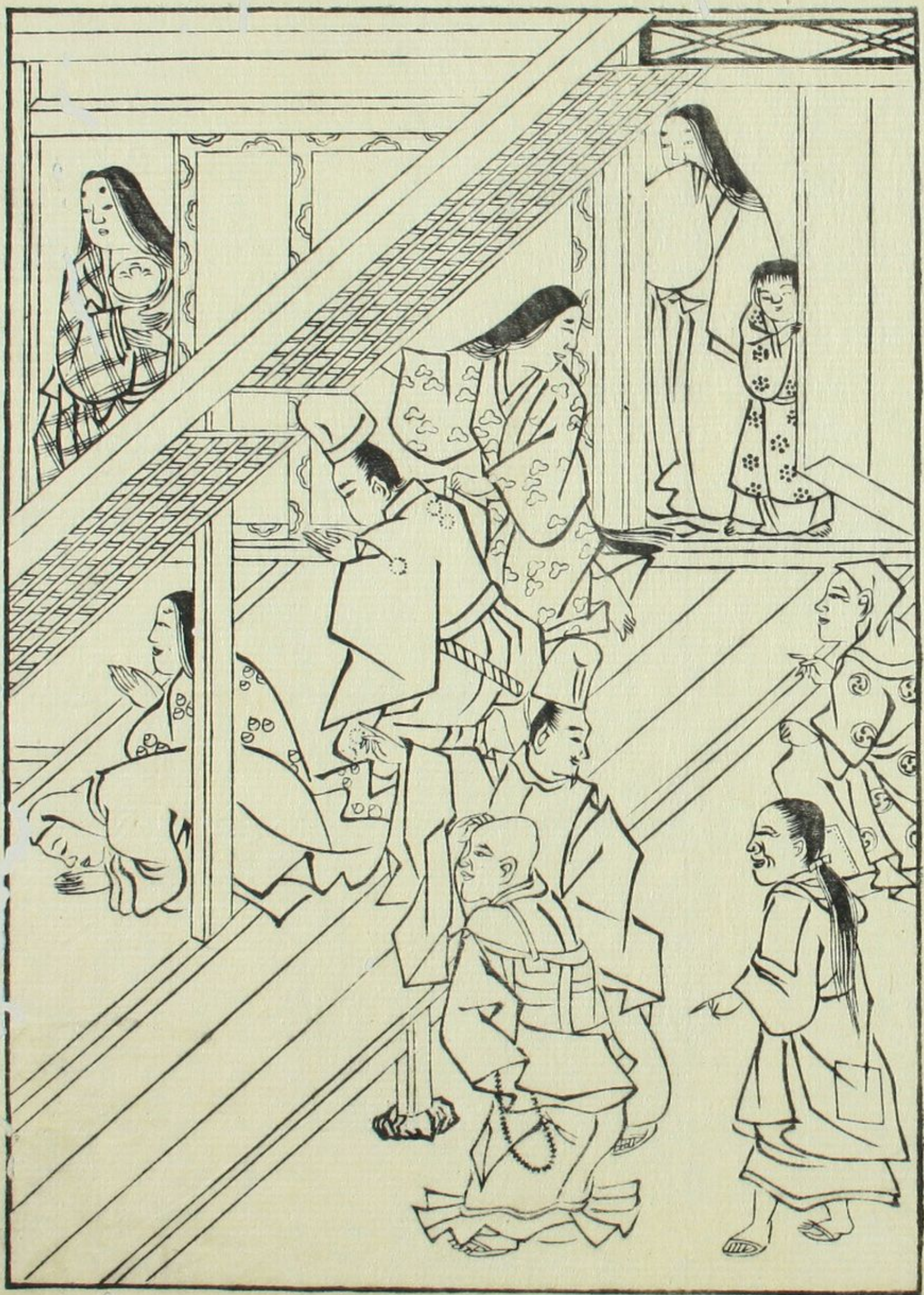
申（申）池（池）の（の）橋（橋）を（を）ま（ま）り（り）終（終）ひ（ひ）た（た）り（り）わ（わ）た（た）頭（頭）光（光）現（現）ら（ら）る（る）
よ（よ）よ（よ）り（り）く（く）大（大）橋（橋）を（を）は（は）頭（頭）光（光）大（大）橋（橋）と（と）ぞ（ぞ）申（申）ら（ら）る（る）も（も）た（た）
よ（よ）も（も）い（い）ゆ（ゆ）依（依）ら（ら）る（る）ま（ま）つ（つ）こ（こ）ろ（ろ）ほ（ほ）い（い）ま（ま）つ（つ）く（く）佛（佛）の（の）こ
と（と）く（く）ふ（ふ）ぞ（ぞ）う（う）も（も）ま（ま）い（い）ひ（ひ）あ（あ）り（り）ま（ま）つ（つ）ま（ま）つ（つ）ま（ま）つ（つ）は（は）。



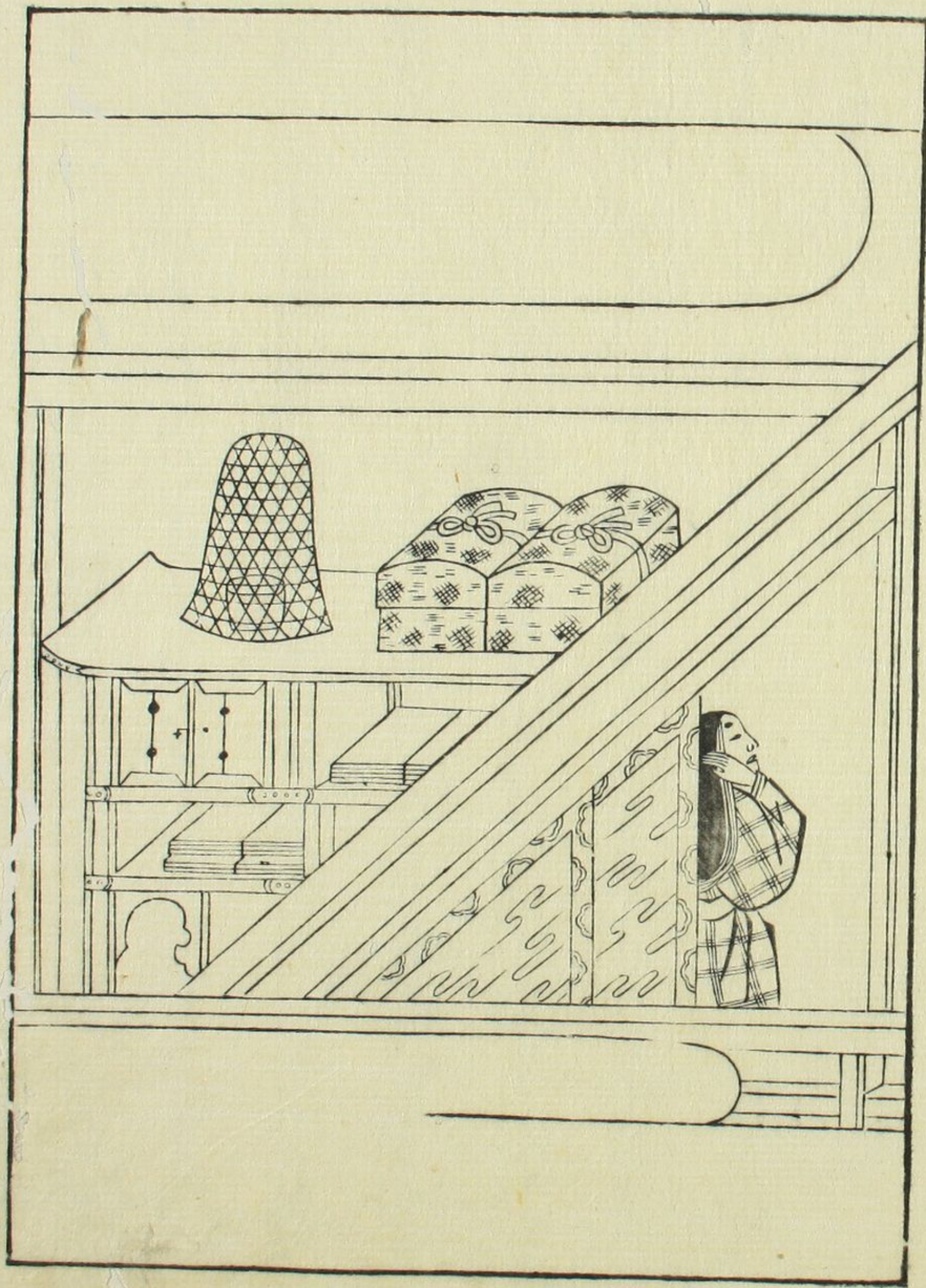


八十一





ある人。不注と人の念珠ねんじゆを盗ぬすりてよ家いへひる名号なごう故
 とちよある時。あつちをこもつてかこつてけりてを
 るよ。一室いつしつ照曜てうやうする事ありたり。それ光ひかりを
 見るよ。上人じゆんじん恩賜おんぎの念珠ねんじゆよりいづて盗ぬすり。殊こととに
 歴たこしら。あつち暗くら夜やなり。星ほし夜やなり。奇あま
 異いれ事ことたりとていふなり。



上人の御影勝法房の繪をく仁ありあるも上人の
真影を畫せりまつりて其銘を前重志あるに
上人の影を見給て後二面成た太の手にもちあ
後をまへよをうけく頂の前後を見合らぬあ
く影よは胡粉をぬりてなをうけくぬりて
まをく似せりて後法房またまつせり銘あり
返答よをよむごりき法房後日よ又系て
申あがりきれたと上人のいまへり侍たり紙り。

我本因地 以念佛心 入無生忍
今於此界 攝念佛入 歸於淨土

十二月十一日 源空

勝法御房

とうきく授けられたるは是を彼ま初小押と改
改しなりこれ首楞嚴經の勢至乃念通の文お
り上人の勢至の應現しりといふ事世奉くこれ
を称とす法よたやくれ文の中よ勢至乃法

羽を自翫小用らね侍る。留るに奇特の事あり。
今故真影を拜し多し。小胡粉を塗く。な
をさるゝ多し。これ末代の電鏡の法よりして。
故に自筆のな返寫す。此繪に加置と云ふあり。又或
人上人の真影を寫し其銘を申き。いと。此文
を書て賜ら。彼正法に。いつく。いま。あり。此か
む申侍る。又讚列生福吉ふ。と。と。強し。樹ハ。勢至菩薩
の像を自作して法然本地身大勢至菩薩為
度衆生故顯置此道場。等置文。これ我らに。法然の
彼配下の巻ふ。と。源も。れ也。勢至乃雲迹。も。衆
との證授く。れ。と。尤位位。も。り。を。れ。也。

